

令和5年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立新宮高等学校（全日制） 校長名：深野 泰宏

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・生徒や地域の期待に応える質の高い教育の実践を目指す。
- ・知・徳・体が調和し、地域社会や次世代の日本社会、国際社会におけるさまざまな分野で活躍できる生徒を育成する。
- ・知識や技能を活用し、課題解決に向けた取り組みを主体的に進められる生徒を育成する。
- ・思いやりがあり、多様な他者より良い方向を目指してともに活動できる生徒を育成する。

学校評価の公表方法

振学会総会や学校運営協議会等において、保護者や学校関係者に公表する。また、ホームページ上にも記載し、公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月2日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒が主体的に学びに向かえるよう働きかけを強め、生徒一人ひとりの学力の定着・向上を図るとともに自己肯定感の高まりを促す。	B	探究学習や探究的な学びの場面を授業や諸活動で多く持つ。	授業や諸活動で探究的な学びが進められているか。	B	新課程や普通科改革支援事業の取組で探究活動を増やせている。	新課程での授業展開・評価の研究や普通科改革支援事業における研究開発を通じて、各教科で探究学習の充実等、授業改革を進めていく。その中で、地道な学習の積み重ねやICTの活用も大事にしていく。
			授業時間の確保と授業規律の保持。	年間授業計画の100%実施とチャイム授業の実践。	B	年間授業計画通りの水準で授業を実施できている。	
			計画的に小テストや課題テスト、補習等を行う。	小テストや課題テスト、補習等の効果的な実践。	C	こまめに実施できているが、形態や効果の検証も必要である。	
2	生徒一人ひとりの進路意識を高め、希望進路の実現を支援する。	B	継続的な個別面談・進路相談及び三者面談の実施。	個別面談及び三者面談を年間5回／1人以上行う。	B	概ね実施できているが、さらなる充実が課題である。	進路指導部・キャリア研究部と各学年等の連携を密にしながら、学校全体で進路年間指導計画に沿って生徒の希望進路の実現を支援していく。面談・AS等の充実を図り、ICTを活用した情報発信や進路の手引きの作成を行う。
			進路検討会や分析会、進路LHR・AS等の計画的な実施。	進路指導年間計画に沿って着実に実施できているか。	B	進路指導年間計画に沿って実施できている。	
			進路便りの発行や説明会等を通して、進路情報を提供する。	進路指導年間計画に沿って着実に実施できているか。	C	進路便りの発行回数は少なかったが、Teamsで随時情報発信した。	
3	地域の高等学校として、家庭や地域と連携しながら教育課題の解決に取り組む。また、大学や諸機関との連携も強め、学際的な学びについて研究することで学校の魅力化を図る。	C	学校行事等を通して、保護者・地域との連携を深める。	公開授業の実施。学校行事の広報活動の実施。	B	公開授業を実施した。行事では地域の方にも多数来校いただいた。	公開授業や学校行事を含め、地域と連携した取組を今後も積極的に実施していく。またそれらの取組を随時発信し、周知を図る。次年度は、普通科改革支援事業の最終年度に当たるため、大学や諸機関との連携の拡充・強化を進め、生徒の活動を支えていく。
			保護者・地域と連携して規範意識を重んじる生活指導を行う。	定期的な校門街頭指導、個別指導、校内美化等の実施。	B	校門街頭指導や校内美化は計画通り実施できた。	
			大学や諸機関との連携を強め、学際的な学びの実現を目指す。	大学や諸機関との新たな連携を構築できているか。	C	連携を進めているが、さらなる拡充と内容の充実を図りたい。	
4	学校全体の組織的実践力の強化に努める。	C	校務分掌の整備や現職教育等を実施し、組織的に学校の魅力化や再編整備に取り組む。	校務分掌の整備や現職教育等が組織的実践力の強化に繋がっているか。	C	再編準備委員会を新たに設け、課題に取り組む体制作りを進めている。現職教育にも注力している。	時代の要請に応えられる学びの環境を整え、本校の魅力化を図るとともに、再編整備に向けた取組を組織的に進めていく。そのためにも組織のあり方については随時検討する。また、テーマを明確にした研究授業の実施や生徒が主体となる活動の活性化を進める。
			ICTの活用や適正な観点別評価を行い、教科指導力を高める。	テーマを定め、各教科において研究授業を実施する。	B	探究的な学びとICTの活用を中心に課題として研究授業を実施した。	
			委員会活動や部活動を通して、生徒の主体性や社会性を育む。	生徒の主体性や社会性を育む活動がなされているか。	B	生徒会活動や部活動の活性化を図っている。	

学校関係者評価（2月26日実施）

学校関係者から評価をいただいた点としては、教職員の姿勢・意識の面で、学習指導や生徒指導などにおいて積極的に生徒と関わっていきこうとしている点や、特別活動における学校行事で、生徒の実態や地域の特色などを生かした活動が展開されていること、また人権教育への取組が挙げられる。

一方課題として捉えられている点としては、学校の特色を打ち出すことや、生徒の自主的な活動の推進、地域との連携、情報提供などが挙げられる。

また、重点目標に関しては、それぞれ次のようなご意見もいただいている。

- [1]
- ・人材育成と進路保障を果たすための一層の学習システムの確立、それらを実施するための教員個々の指導力の向上を図ってほしい。
 - ・学びの質を高めるために、教務規程の評価基準の見直しが必要である。
 - ・個々の学習目標を明文化し取組を促すなど、基本的な事項から行き、意欲・意識の向上や自己肯定感の高まりに繋げる。短期・長期の見通しを持たせる。
 - ・小テストや課題テスト・補習などでもオンラインの活用を進める。
- [2]
- ・進路情報の提供と個々に寄り添った指導、生き方・在り方を考えるキャリア教育の推進。
- [3]
- ・本校と同様の課題を抱える学校の先行事例に学ぶ。
 - ・総合的な探究の時間の発表会や研究授業などの公開を積極的に行う。
 - ・清掃をより徹底するなど、学びの環境整備を意識させる。
- [4]
- ・再編整備の際には、校舎の設備などハード面の充実も図ってほしい。
 - ・再編に向けた取組を組織的に行う。
 - ・部活動指導員配置の検討。

